第3章　都市づくりの目標

１．都市づくりの理念と目標

(1)都市づくりの基本理念

・本市は、関越自動車道や国道 17 号、国道 117 号、JR 上越線などの広域交通網をはじめとする恵まれた立地環境、長岡東山山本山県立自然公園や信濃川などの優れた自然環境のもと、工業や商業機能の充実による雇用機会の創出、文化・スポーツ・福祉機能の充実などを行ってきました。
・しかし、グローバル社会の進展や長引く景気の低迷や行財政の硬直化などにより、活力の低下が懸念されます。
・また、急速に進展する少子化・高齢化に伴い、中心市街地の空洞化や地域コミュニティの衰退などの問題が深刻となっているとともに、新潟県中越大震災や東日本大震災による大きな被害・原子力発電所の事故を教訓として、安全・安心に対する市民の意識やニーズが高まっています。
・これからの都市づくりにおいては、少子化・高齢化、地球環境問題、安全・安心などの様々な社会的課題に対応するとともに、まちづくりに関する市民意識の高まりに応えることが求められています。
・また、都市圏や生活圏が拡大し、都市間競争が激しくなる状況にあって、小千谷という個性を失わないためには、今ある資源、小千谷にしかないものを有効に活用し、さらに魅力あるものへと磨きをかけていく必要があります。
・本市には、先人たちが長い年月をかけて守り・育んできた美しい自然や歴史、伝統の技や文化、産業都市としての創造力、震災による大被害を乗り越えてきた市民力があります。
・それらを今後の都市づくりに活かすため、本計画では、次の 2 つを基本理念に掲げます。

◎ふるさとの原風景を守りながら、誇りと愛着をもち、誰もが安全で快適に暮らすことができる都市づくりを目指します

◎市民・団体・事業者と行政の協働により、個性と創造力にあふれた都市づくりを目指します

(2)都市づくりのテーマ

・都市づくりの基本理念を受けて、第四次小千谷市総合計画が目指す都市像「創造、伝統、自然が織りなす誇りあるまち　おぢや」を実現するための都市計画・都市づくり分野のマスタープランとして、都市づくりのテーマを以下のように設定します。

◆ 第四次小千谷市総合計画 ◆

創造、伝統、自然が織りなす誇りあるまち　おぢや

↓

◆ 都市づくりの基本理念 ◆

◎ふるさとの原風景を守りながら、誇りと愛着をもち、誰もが安全で快適に暮らすことができる都市づくりを目指します

◎市民・団体・事業者と行政の協働により、個性と創造力にあふれた都市づくりを目指します

↓

◆ 都市づくりのテーマ ◆

個性が輝く創造と交流の都市　小千谷

○個性が輝く…

・長岡東山山本山県立自然公園をはじめとする緑豊かな山並み、信濃川の広大な水辺とその流れが造り出した河岸段丘の地形、米どころを支える広大な田園、小千谷縮や錦鯉、牛の角突き、片貝まつり、おぢや風船一揆、さらには大震災を乗り越えた市民力。

・これらは小千谷を表す代表的な言葉であり、小千谷の「個性」と呼べるものです。

・これからの都市づくりにおいては、小千谷の個性にさらに磨きをかけ、積極的に活用していくとともに、地域の“宝”として未来へと引き継いでいきます。

○創造と交流…

・伝統産業に加え、電子部品産業や鉄工・機械産業、食品製造業などの基幹産業を核に、モノづくりが盛んな都市を目指します。

・また、安全で快適に暮らせる都市環境を創出するとともに、小千谷の個性を未来に引き継ぐ人づくり、次代のまちづくりを担う人づくりを進めながら、いつまでも住み続けたいと思える都市、住んでみたいと思える都市を目指します。

・そして、小千谷の個性と創造力（＝魅力）を全国に発信し、県内だけでなく、首都圏など全国との多様な交流が活発になる都市を目指します。

(3)都市づくりの目標

・都市づくりの基本理念やテーマを実現し、安全で快適に暮らせる都市環境と自立可能な地域力のある都市を形成するため、以下の３つを都市づくりの目標（柱）として掲げます。

個性が輝く創造と交流の都市　小千谷

①活発な交流と持続可能な土地利用を誘導する都市づくり

・人と環境にやさしい、コンパクトで持続可能な土地利用を誘導することを基本に、住む・働く・遊ぶ・交流などの各種都市機能の整備・誘導とこれらを支える交通ネットワークの形成により、長岡市などの周辺都市や全国各都市との広域的な連携強化と多様な交流活動の活発化を図り、賑わいのある都市づくりを進めます。

②豊かな自然と調和する安全で快適な都市づくり

・四季を彩る郷土の豊かな自然と調和し、安全で快適な都市環境を創出することを基本に、市街地・田園・森林の各地域の実情を踏まえた自然環境の保全や活用、身近な緑化や修景、コミュニティを活かした防災対策などを推進し、安心して暮らせるうるおいのある都市づくりを進めます。

③市民とともに個性と魅力を創り出す都市づくり

・「小千谷」らしさをアピールする美しい自然環境・景観や魅力ある都市空間を市民とともに保全・創出することを基本に、市民・団体の声を施策に十分に反映しながら、地域固有の自然や歴史・文化を活かした、誇りと愛着のもてる・誰もが住みたくなる都市づくりを進めます。

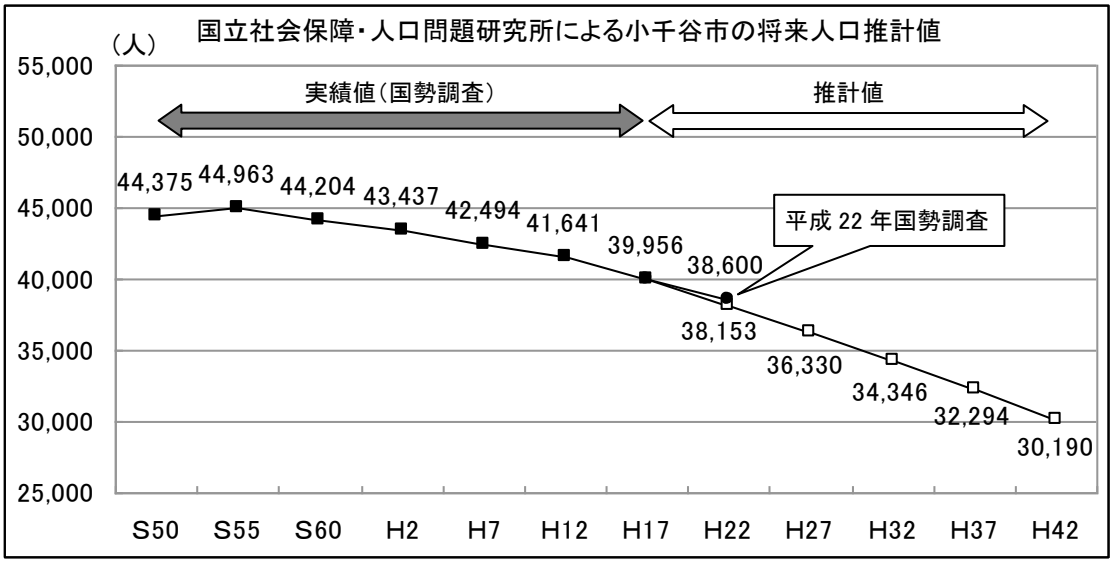
２．人口フレーム

・「人口フレーム」は、将来における都市規模の設定や都市施設の整備目標量の算出根拠などとして重要な事項です。

・設定値が大きすぎれば、その受け皿となる都市整備の目標量が過大となり、公共投資の効率性や投資効果が損なわれるとともに、その後の維持管理費も増大します。設定値が小さすぎれば、市民の暮らしを支える生活基盤の不足やサービスの低下につながります。

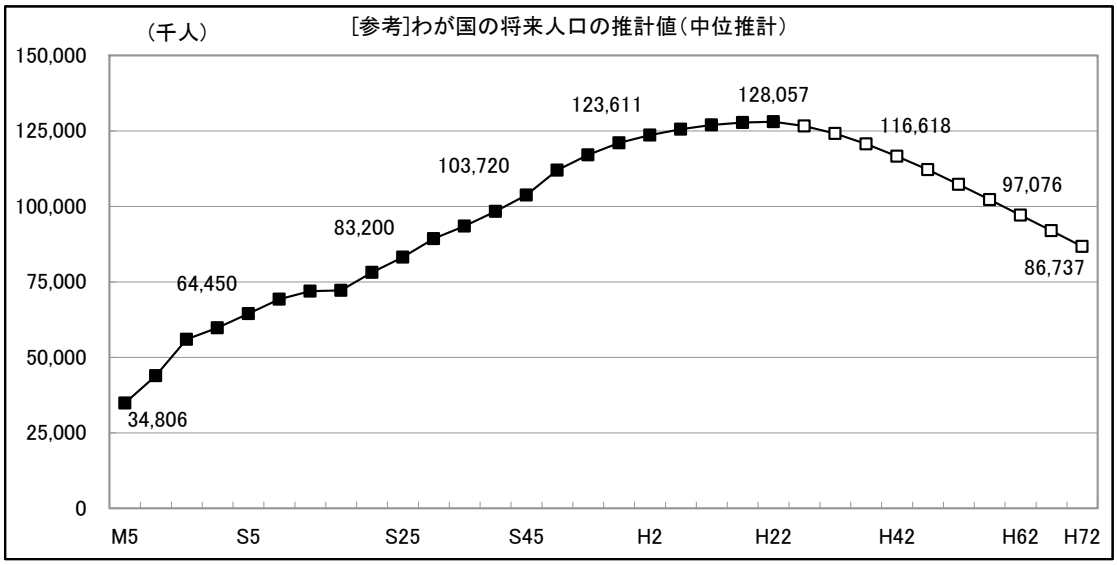
①将来人口の推計

・平成 17 年の国勢調査を基準に国立社会保障・人口問題研究所が平成 20 年 12 月に発表した市町村別の将来推計人口によると、本市の人口は、概ね 10 年後の平成 32 年に 34,346 人、概ね 20 年後の平成 42 年には 30,190 人にまで減少する結果となります。



[参考]わが国の将来人口の推計

・平成 22 年の国勢調査を基準に国立社会保障・人口問題研究所が平成 24 年 1 月に行った推計によると、わが国の総人口は長期の減少過程に入り、平成 60 年（2048 年）に 1 億人を下回り、平成 72 年（2060 年）には 8,674 万人にまで減少する結果となります。



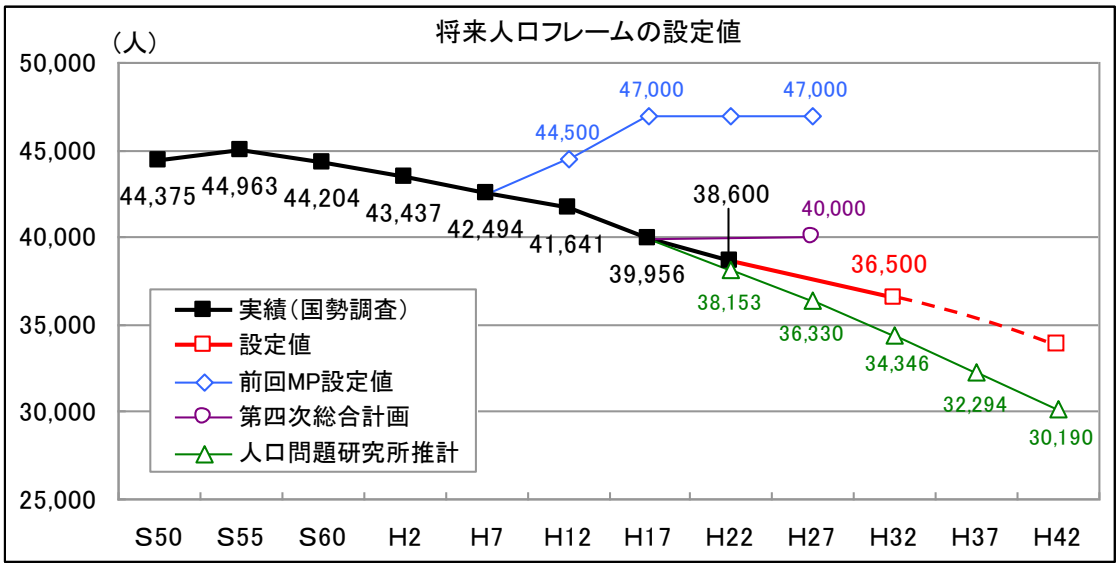
②将来人口フレーム

・人口の減少は、都市活力の低下や産業の衰退だけでなく、農地や山林が有する美しい自然景観の荒廃、長年にわたり培われてきた独自の歴史・伝統・生活文化・地域産業の担い手不足、地域コミュニティの衰退などを招きます。

・このため、安全に住み続けられる環境づくり、定住とＵＪＩターンの推進、雇用の場の確保、子どもを産み・育てやすい環境づくりなどを進め、人口減少を抑制するとともに、観光や田舎暮らし体験などの交流人口の拡大に取り組んでいくことが必要です。

・そこで、本計画の中間年次（平成 32 年）における目標人口を 36,500 人と設定し、目標達成に向けて総合的な視点で取り組んでいきます。

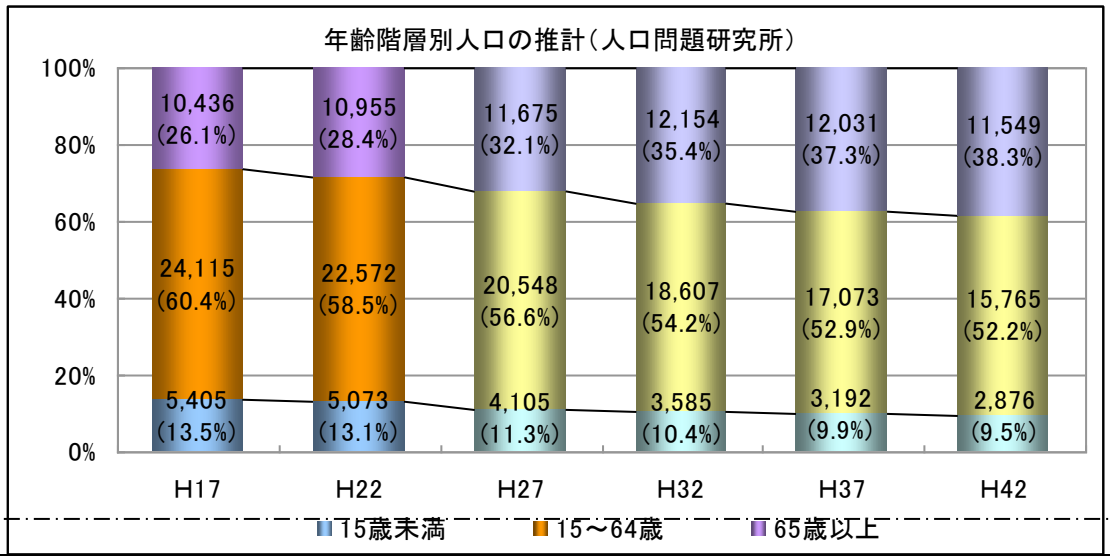
・ただし、本格的な人口減少社会を迎える中で、長期的な人口減少は避けられないものと考えられ、コンパクトで持続可能な都市づくりがこれまで以上に必要です。



（参考）年齢階層別人口の予測

・将来推計人口の内訳を年齢階層別にみると、15 歳未満の年少人口の割合が 10%を下回る一方、65 歳以上の老年人口の割合が 38.3%を占める結果となります。

・このため、医療や福祉対策だけでなく、高齢者に対する移動手段の確保、自然環境の面から自動車に過度に依存せずに暮らせる環境づくりなど、高齢者と自然環境に配慮した都市づくりが必要です。



３．将来都市像

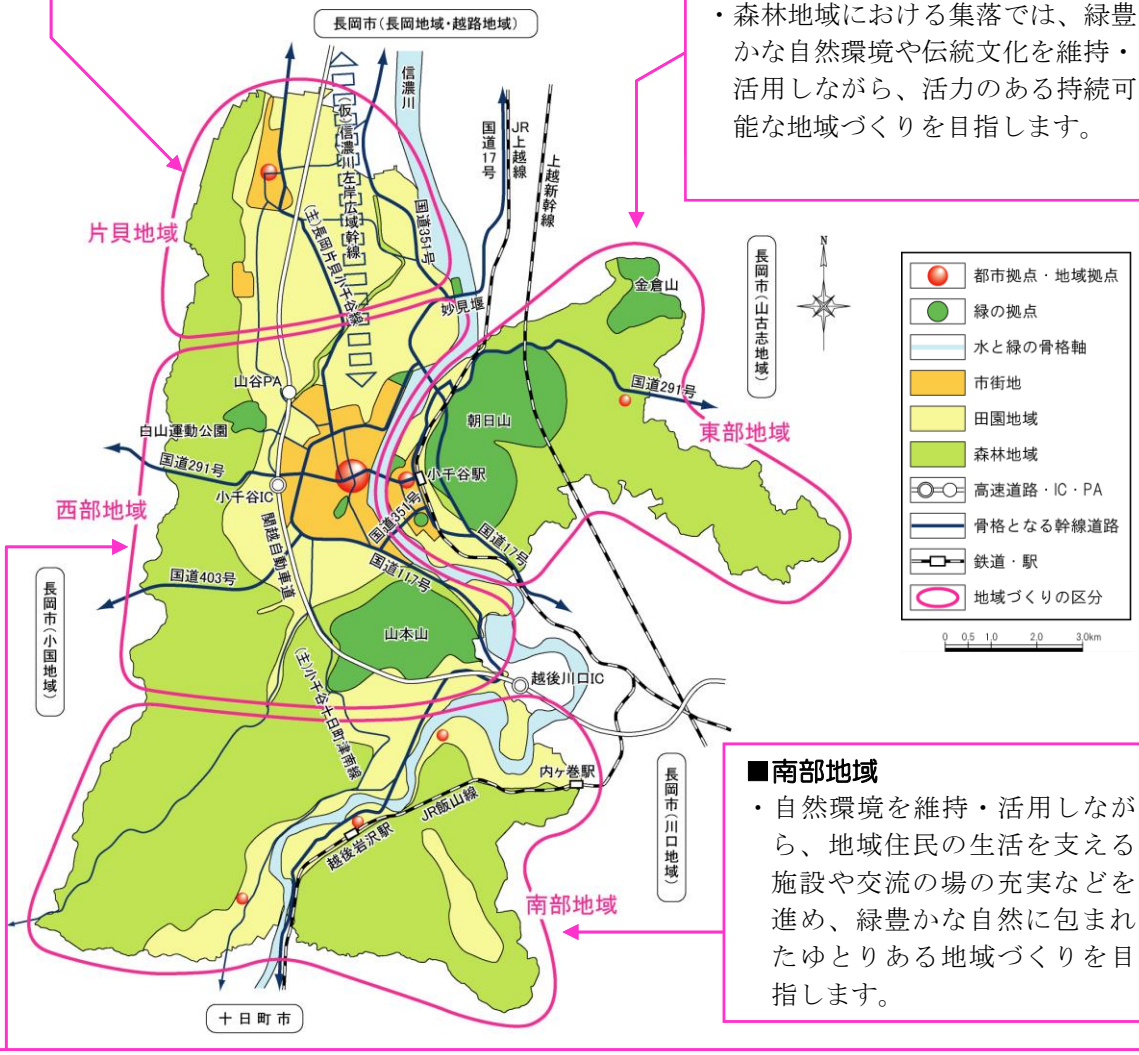
都市内外の交流と連携を深め、自然との共生を図りながら個性と魅力を創出する都市づくりを目指し、都市拠点の適正な配置と多様な交流を促進する都市の軸づくりを進めるとともに、片貝・西部・東部・南部地域の特性を活かした地域づくりに取り組みます。

①個性ある地域づくり

◆ 将来都市像図 ◆
（小千谷市全域）

■片貝地域
・長岡市に近接する利便性の高さを活かして、住宅地や立地企業を中心に、職・住が近接する快適な市街地環境を形成します。
・丘陵地や集落地では、豊かな自然景観や伝統文化を守りつつ、これらを活かした個性ある地域づくりを目指します。

■東部地域
・市街地では、地域住民の生活を支える拠点づくりと安全で快適に暮らすことのできる都市環境づくりを進めます。
・森林地域における集落では、緑豊かな自然環境や伝統文化を維持・活用しながら、活力のある持続可能な地域づくりを目指します。



■南部地域
・自然環境を維持・活用しながら、地域住民の生活を支える施設や交流の場の充実などを進め、緑豊かな自然に包まれたゆとりある地域づくりを目指します。

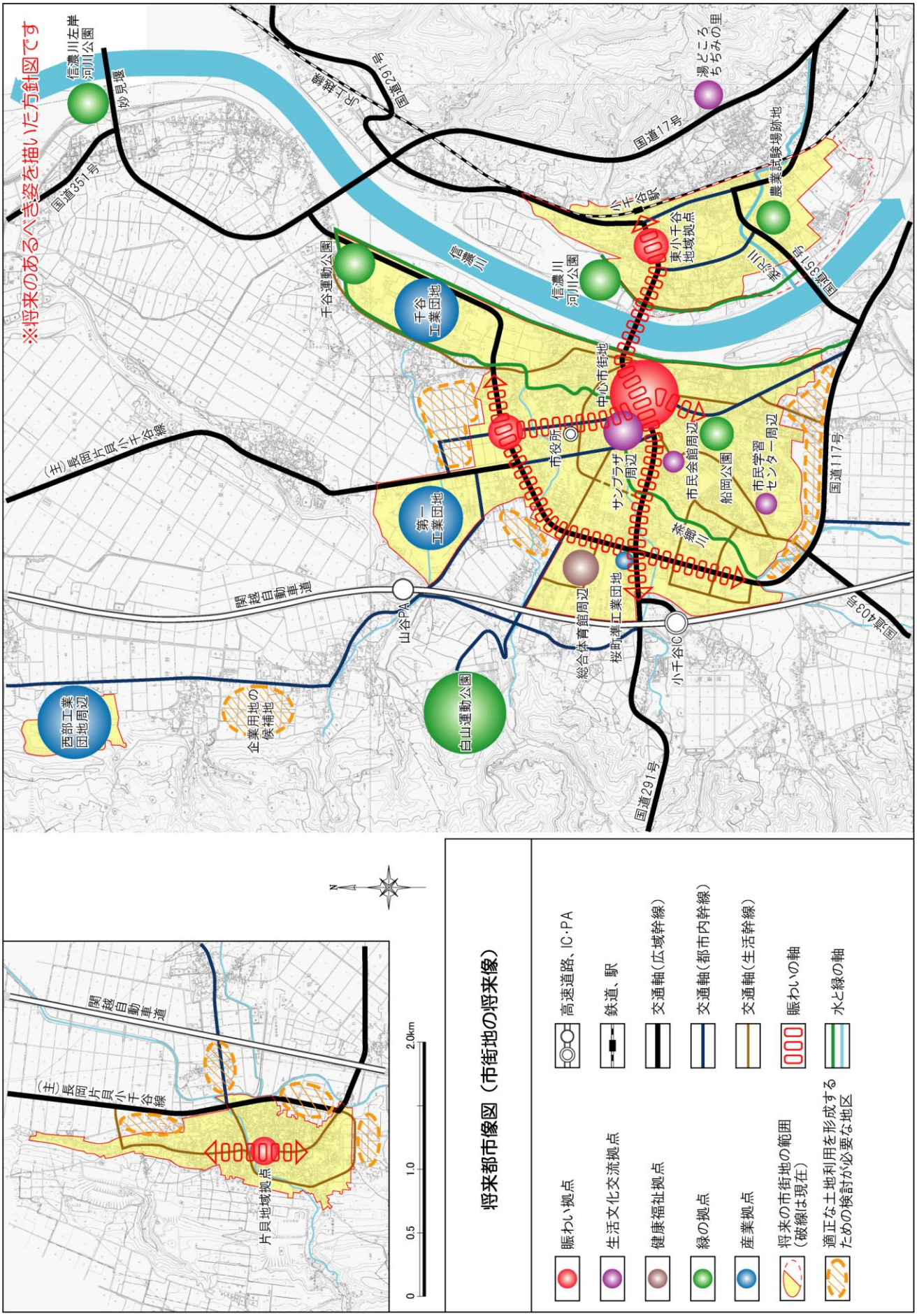
■西部地域
・既存の都市機能や地域資源の集積を最大限に活用しながら、都市の『顔』となる拠点づくりを進めるとともに、適正な土地利用の規制・誘導によりコンパクトな市街地を形成します。
・市街地を取り囲む田園・森林地域では、山本山や河岸段丘などの自然環境・景観と共生する地域づくりを進めるとともに、良好な環境を活かした体験・交流や農山村居住などを推進します。

②魅力ある都市の拠点づくり

賑わい拠点	・本町周辺は、商業・業務機能の強化を図るとともに、小千谷総合病院跡地を有効活用し、本市の中心市街地にふさわしい賑わいのある拠点づくりを進めます。 ・東小千谷市街地や片貝市街地の既存商業地では、地域住民に対する日常的な生活サービスを提供する商業地づくりを進めます。
生活文化交流拠点	・サンプラザ周辺は、本市固有の伝統産業や歴史文化、茶郷川の水辺を活かしながら、都市の顔として市民が誇りをもてる拠点づくりを進めます。 ・湯どころちぢみの里では、本市の魅力を PR するとともに、広域的な自動車交通を市内へ誘導するような仕掛けづくりを進めます。 ・市民会館周辺及び市民学習センター周辺は、文化活動の中心となる場として機能の充実を図り、本市の文化をアピールします。
健康福祉拠点	・総合体育館周辺では、市民の健康増進と地域福祉の向上に向けた拠点形成を図ります。
医療拠点	・小千谷総合病院と魚沼病院の統合病院の建設予定地を医療拠点に位置づけ、周辺土地利用との調和に配慮しつつ、医療拠点にふさわしい立地環境を形成し、アクセスがしやすい環境整備を図ります。
緑の拠点	・山本山一帯では、自然に親しめる観光、学習やレクリエーションの場などとしての活用を図ります。 ・白山運動公園や信濃川河川公園などにおいては、スポーツ・レクリエーションの場として活用を図ります。 ・市街地では、既存公園の充実や適切な維持管理を図ります。 ・農業試験場跡地を活用し、災害時における防災拠点などとして機能する公園の整備を図ります。
産業拠点	・既存の工業団地は、本市の活力を創造する産業拠点として、周辺環境との調和を図りながら、基盤整備や新たな企業立地を促進します。 ・さらなる産業の振興と既存の市街地環境の改善を図るため、土地利用条件や交通条件などを踏まえながら、新たな企業用地の整備を検討します。

③多様性のある都市の軸づくり

交通軸	・周辺都市や市内各地域を結ぶ広域道路を整備・充実するとともに、市街地では放射環状型の道路網を形成し、鉄道やバス交通とも連携しながら、総合的な交通ネットワークづくりを進めます。
賑わいの軸	・小千谷駅と小千谷 IC を結ぶ導線を、商店街などと連携してまちなみ景観の演出を図り、潤いのある、人に優しく魅力的な空間づくりを進めます。 ・国道 117 号沿いや片貝市街地の外縁部などでは、沿道土地利用の適切な誘導に努めながら、賑わいや楽しさが感じられる空間づくりを進めます。
水と緑の軸	・信濃川、茶郷川などの河川を活用した公園や親水空間・散策空間の整備を図り、回遊性のある水と緑の軸づくりを進めます。


※将来のあるべき姿を描いた方針図です
信濃川左岸河川公園
妙見堤
国道351号
JR上越線
国道291号
湯どころちちみの里
国道17号
農業試験場跡地
小千谷駅
東小千谷地域拠点
信濃川
信濃川河川公園
千谷運動公園
千谷工業団地
第一工業団地
中心市街地
市役所
サンプラザ周辺
市民会館周辺
船岡公園
市民学習センター周辺
総合体育館周辺
桜町進工業団地
国道117号
国道403号
国道291号
小千谷C
山谷PA
関越自動車道
西部工業団地周辺
企業用地の候補地
白山運動公園
片貝地域拠点
(主)長岡片貝小千谷線
0
0.5
1.0
2.0km
将来都市像図（市街地の将来像）
賑わい拠点
生活文化交流拠点
健康福祉拠点
緑の拠点
産業拠点
将来の市街地の範囲（破線は現在）
適正な土地利用を形成するための検討が必要な地区
高速道路、IC・PA
鉄道、駅
交通軸（広域幹線）
交通軸（都市内幹線）
交通軸（生活幹線）
賑わいの軸
水と緑の軸